

2023年2月実績概要（メモ）

（2023. 3. 23）

一部品目で増産が見られるものがあるが、生産状況は、依然として調整局面が続く。

1. 生産動向

イ) エチレン 433,600トン

前月比 ▲10.1% (▲48,800トン)

前年同月比 ▲0.8% (▲3,600トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲9.7%	—
定修要因等	—	+12.8%
能力増減	—	—
稼働率変動	▲0.4%	▲13.6%
生産増減率	▲10.1%	▲0.8%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月81.5% → 当月81.1% ← 前年同月92.3%

定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数の減少や定修要因から、LDPE、HDPE、SM、塩ビモノマー、MMAモノマー、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの15品目がマイナス。EO、EGの2品目は稼働率要因からプラスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因から、LDPE、HDPE、PPなどの4品目はプラス。PS、SM、MMAモノマー、EO、EG、AN、SBR、BR、ベンゼン、キシレンなど13品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、稼働日数の減少を主因にLDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスとなった。

前年比は、前年がLDPE、PPでは年初から定修規模が増加したこともあり、低調な生産となっていた。当年はこれに対して、定修規模の縮小からLDPE、HDPE、PPでプラス。PSのみがマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

物価上昇も電力・ガス代金の抑制から鈍化しつつも、消費マインドは引き続き弱い動きとなっている。また、国内の生産活動も前月の1月に低下した分、2月以降は上昇が期待されつつも生産活動のマインドとしては依然として弱気が上回っている。

樹脂の出荷は、前月が正月休み等の影響から低調であったのに対し、当月はユーザー側の稼働日数の増加もあり、LDPE、HDPE、PP、PSの4樹脂ともにプラスに転じた。

前年比は、4樹脂でマイナスとなり、ポリオレフィン3樹脂は、単月の出荷量としては、当該月では過去と比べて低水準の出荷となっている。

出荷分野別では、LDPEはフィルム分野、加工紙分野、HDPEはフィルム分野、PPは射出成形分野、繊維分野での減少が目立つこととなった。PSは包装分野を中心に主要分野の出荷がいずれも減少した。

ハ) 輸出

前月比は、中国の春節休暇後も域内需要の主だった改善は見られていない。市況面では原料エチレン等に対して、樹脂製品の市況の盛り上がりを欠いている。当月は、前月の輸出が低調であったこともあり、LDPE、HDPE、PP、PSともにプラスとなった。一方、前年比は、HDPEのみはプラスとなったが、LDPE、PP、PSは大幅なマイナスが続いている。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対してLDPE、PSは減少、HDPE、PPは微増となった。在庫率(季節調整済)は、LDPE、HDPE、PPで低下、PSは前月並みとなった。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PP、PSともまだ高めの水準にあるが、在庫調整の動きが進みつつある。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		1月末	2月末
LDPE	▲ 6,500	4.2	3.7
HDPE	+ 200	4.4	3.5
P P	+ 5,300	3.4	3.2
P S	▲ 2,400	2.2	2.2